

国際バカロレアについて

1. 国際バカロレア機構について

インターナショナルスクールの卒業生に、国際的に認められる大学入学資格を与え、大学進学へのルートを確保するとともに、学生の柔軟な知性の育成と、国際理解教育の促進に資することを目的として1968年に国際バカロレア機構が発足した。

国際バカロレア機構は、ジュネーブに本部を置き、認定校に対する共通カリキュラムの作成や国際バカロレア試験の実施及び国際バカロレア資格の授与などを行っている。

2. 国際バカロレア(国際バカロレア機構が行う教育)について

3歳から19歳の子どもの年齢に応じて以下の3つのプログラムがある。

(1) プライマリー・イヤーズ・プログラム(対象:3歳~12歳)

精神と身体の両方を発達させることを重視しているプログラム。

どのような言語でも提供可能。

(2) ミドル・イヤーズ・プログラム(対象:11歳~16歳)

青少年に、これまでの学習と社会のつながりを学ばせるプログラム。

どのような言語でも提供可能。学習期間は5年と設定されているが、もっと短い期間での学習も可能。

(3) ディプロマ・プログラム(対象:16歳~19歳)

合格すると、世界各国で認められているディプロマ資格(大学入学資格)を得られる最終試験があるプログラム。英語、フランス語、スペイン語(一部、ドイツ語、中国語でも実施可。)で授業、試験を行う。カリキュラムは6科目(第1言語、第2言語、個人と社会、実験科学、数学とコンピュータ、芸術又は選択科目)から選択するほか、課題論文など3つの要件を満たす必要がある。プログラムの終わりに筆記試験を受けるとともに、学内の課程を全て修了する必要がある。ディプロマ資格を取得するためには、45点満点中、24点以上取得することが必要。

3. 文部科学省による協力

昭和54年に告示により、国際バカロレア資格を有する者で18歳に達したものを、大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者として指定。

また、昭和54年から毎年、資金を拠出しており、国際バカロレア普及のためのフォーラムの開催等に役立てられている。

4. その他

平成24年6月4日に公表されたグローバル人材育成推進会議審議のまとめにおいて、「高校卒業時に国際バカロレア資格を取得可能な、又はそれに準じた教育を行う学校を5年以内に200校程度へ増加させる」とこととされており、国際バカロレアの普及に向けた各種取組を拡充する必要がある。

別紙. 国際バカロレア認定校数

(1) 国際バカロレアの認定校数

141か国 約3,370校(2012年3月現在)

(2) 日本にある国際バカロレアの認定校(24校)(2012年6月現在)

○セント・メリーズ・インターナショナルスクール(東京都)	DP
○カナディアン・アカデミー(兵庫県)	PYP、MYP、DP
○サンモール・インターナショナルスクール(神奈川県)	DP
○横浜インターナショナルスクール(神奈川県)	PYP、DP
○清泉インターナショナルスクール(東京都)	PYP、DP
○大阪インターナショナルスクール(大阪府)	PYP、MYP、DP
●加藤学園暁秀高等学校・中学校(静岡県)	MYP、DP
○K・インターナショナルスクール(東京都)	PYP、MYP、DP
○広島インターナショナルスクール(広島県)	PYP、DP
○東京インターナショナルスクール(東京都)	PYP、MYP
○神戸ドイツ学院(兵庫県)	PYP
○京都インターナショナルスクール(京都府)	PYP
○福岡インターナショナルスクール(福岡県)	DP
○名古屋国際学園(愛知県)	DP
●玉川学園K-12・玉川大学(東京都)	MYP、DP
●AICJ中学・高等学校(広島県)	DP
●立命館宇治高等学校(京都府)	DP
●東京学芸大学附属国際中等教育学校(東京都)	MYP
○カナディアン・インターナショナルスクール(東京都)	PYP
○沖縄インターナショナルスクール(沖縄県)	PYP
●ぐんま国際アカデミー(群馬県)	DP
○つくばインターナショナルスクール(茨城県)	PYP
○同志社国際学院(京都府)	DP
○大阪 YMCA インターナショナルスクール	PYP

内訳: DP16校、MYP7校、PYP13校

●・・・学校教育法第1条に規定されている学校

DPのカリキュラム

- ① DPのカリキュラムは、下記の6つのグループにより構成される。
グループ1からグループ5までの科目を各1科目選択し、さらに芸術又はグループ1からグループ5の中から1科目を選び、合計6科目を2年間履修する。

グループ名	科目
グループ1	第1言語（母語）
グループ2	第2言語（5つの外国語）
グループ3	個人と社会（歴史、経済学、哲学、心理学等）
グループ4	実験科学（生物、化学、物理等）
グループ5	数学とコンピューター科学（数学、コンピューター科学等）
グループ6	芸術（美術、音楽、演劇等）又は選択科目

- ② 各科目については、高レベル(HL)として3～4科目、それ以外の2～3科目を標準レベル(SL)として履修。（HLは240時間、SLは150時間の履修が必要。）

- ③ その他、下記3つの要件を充足する必要。

- ・要件1 Extended Essay (課題論文)・・・学習している科目に関連した研究課題を設定し、自ら調査・研究を行い論文としてまとめる。日本語を選択した場合8000字論文も可。
- ・要件2 Theory of Knowledge(知識の理論)・・・学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味し、理性的な考え方と客観的精神を養う。さらに、言語・文化・伝統の多様性を認識し国際理解を深めて偏見や偏狭な考え方を正し、論理的思考力を育成する。最低100時間の学習。
- ・要件3 Creativity/Activity/Service (CAS:創造性・活動・奉仕)・・・教室外の広い社会で経験を積み、様々な人と共同作業することにより協調性、思いやり、実践の大切さを学ぶ。最低150時間の学習。

※ DPは、授業、試験ともに英語、フランス語、スペイン語のいずれかで行われるのが基本である（一部では、試験的に中国語とドイツ語でも行われている）。